

【金山越】

金山の景観は、自然環境をはじめ、馬頭塔、石仏、石碑、縁石、石積み等の街道関連遺構等から構成され、季節毎に豊かな表情を見せている。また、金山越の眺望景観として、金山の木々の葉が芽吹く前の5月上旬頃まで金山峠付近から北側を望んだときに見える残雪の月山及び村山葉山の山並みがある。檜下宿同様、金山越でも、市民参加による保全活動が定期的に行われており、今後も史跡景観の適正な保全と次代への確かな継承を図る。

◆近景・中景



図 240 沿道の石積み（金山宿南側）



図 241 沿道の石積み（金山宿南側）

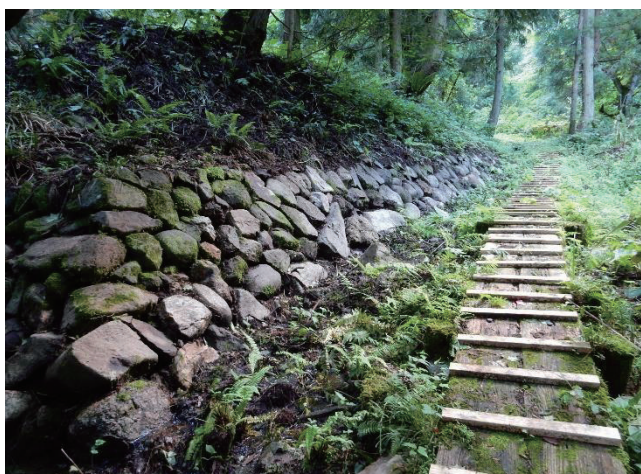


図 242 沿道の石積み

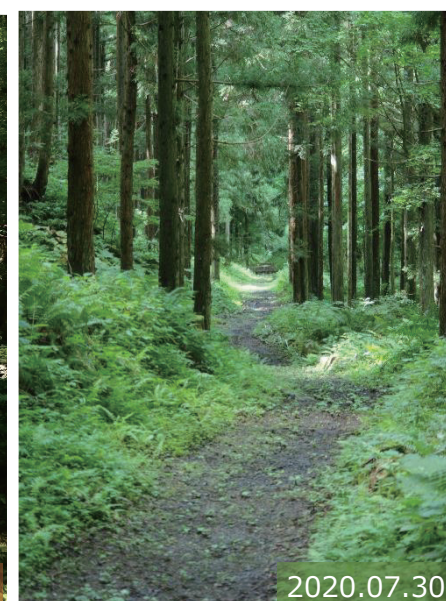
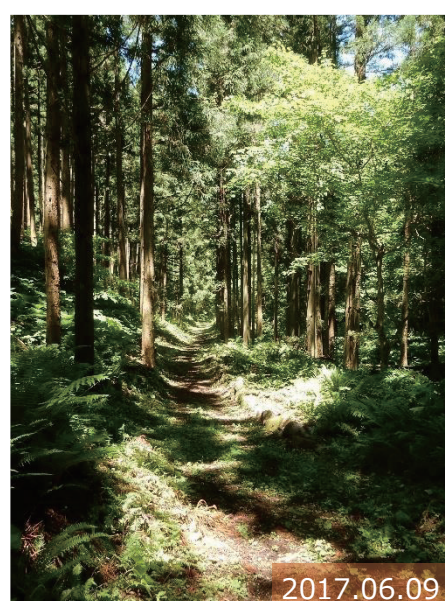
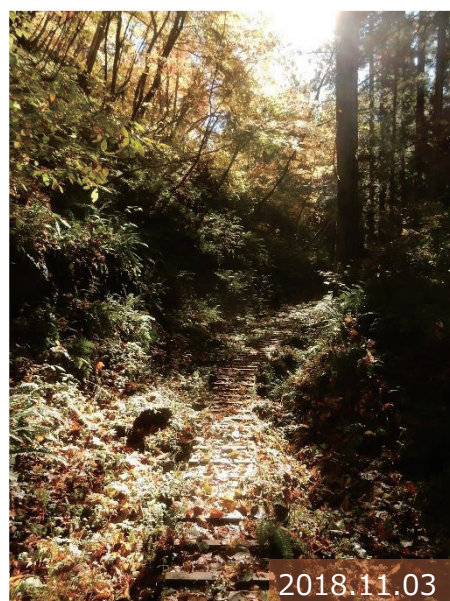
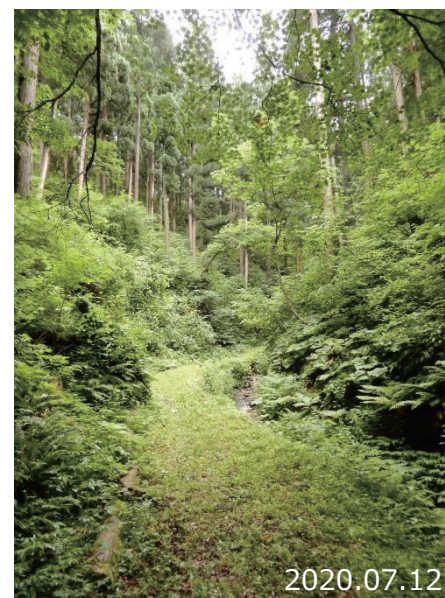
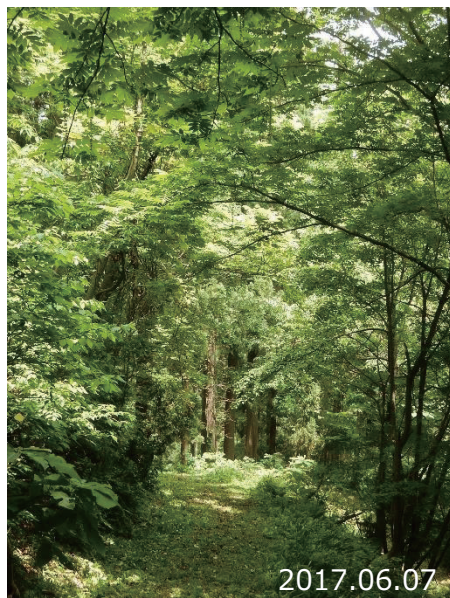
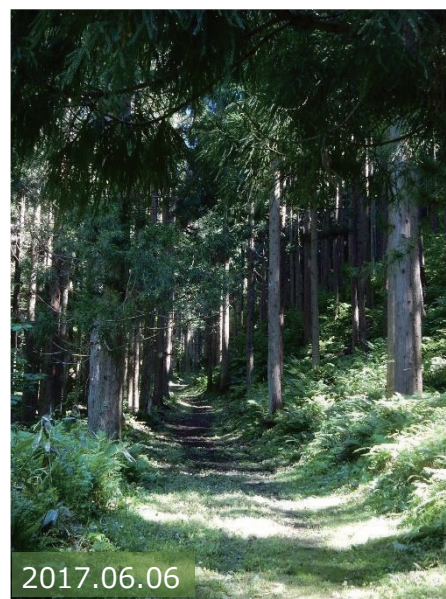
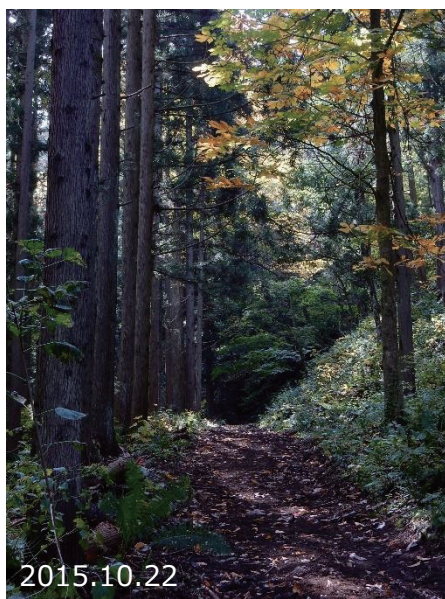
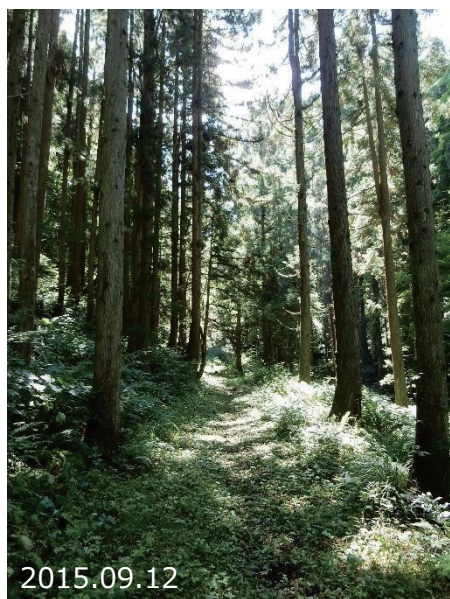


図 243 八日溝供養塔（1744／右）と湯殿山碑（1802）

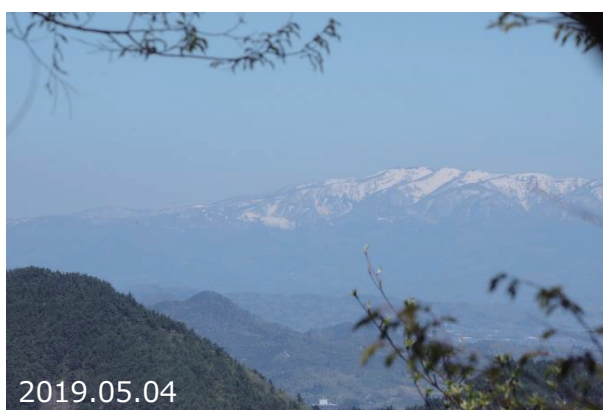
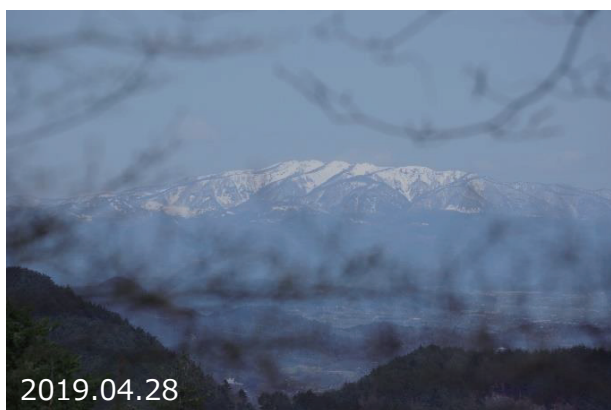


図 244 沿道の積石堤（馬頭塔北側）

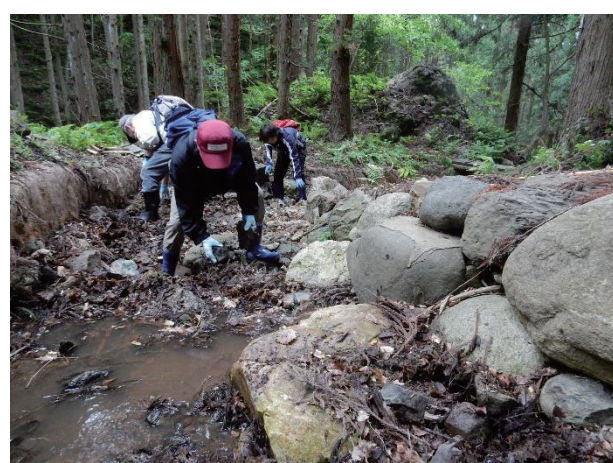
◆金山越街道の自然豊かな景観 図245



◆金山峠付近からの眺望景観（残雪の村山葉山及び月山の山並み）図246



◆金山峠越えで実施している市民史跡保全活動（平成27年度／2015～、年3回実施）図247



5-6-2 危険木の処置

【檜下宿】

金山川に架かる新橋の上流左岸のケヤキや雑木等が大きく成長し、新橋及び街道に向かって大きく枝を張ってきている（図248）。

これらの木々は、強風等により倒伏すると、石橋及び街道を毀損する可能性が極めて高いことから、通行の安全と史跡の保護のため、枝払いや伐採等を地元との合意形成を図りながら景観に配慮した上で計画的に実施していく。

令和2年3月23日、地域の歴史を活かしたまちづくりに取り組んでいる地元の住民組織、羽州街道「檜下宿」研究会では、金山川沿いの眺望景観を保全するため、大きく成長したケヤキの枝払いや雑木の伐採を実施した（図249）。

【金山越】

金山越では、街道沿いの立ち枯れしたスギや、法面が崩落して根がむき出しになったスギが複数箇所で確認されているほか、街道に向かって倒伏したかかり木も多い（図250～図252）。

これらについては、倒伏や街道への流入が懸念されるため、史跡探訪者の安全確保のために伐採等を計画的に進めていく。



図 248 大きく枝を張るケヤキ



図 249 地域住民主導で危険木の枝払い
2020. 03. 23

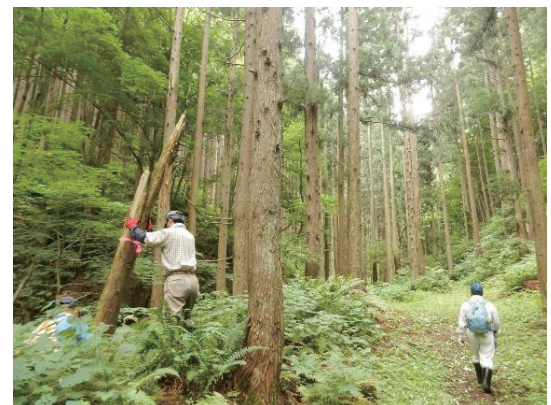


図 250 街道沿いの立ち枯れしたスギ

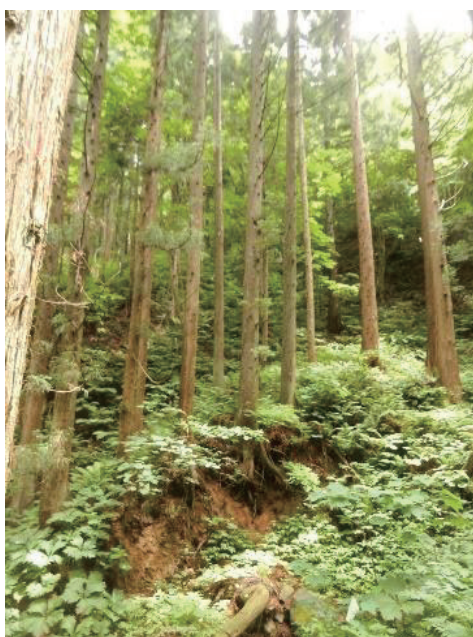


図 251 法面が崩落し根がむき出しになったスギ。災害復旧 No. 15 地点北

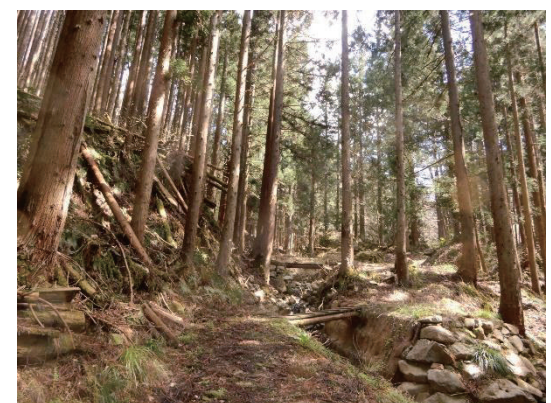


図 252 街道に向かって倒伏するかかり木。第2木橋付近

5-6-3 眺望景觀の確保

【櫓下宿】

金山川にかかる新橋下流左岸にあるケヤキやクルミが対岸まで枝を張り宿場内の眺望を遮っている（図253）。

同様に、硯橋の上流左岸のケヤキやクルミも対岸まで枝を張り、眺望を阻害していることから、史跡の眺望景觀を保全するため、枝払いや伐採を計画的に実施する。

令和2年3月23日、歴史を活かしたまちづくりに取り組んでいる地元の住民組織、羽州街道「櫓下宿」研究会が、金山川沿いの眺望景觀を保全するため、ケヤキの枝払いやクルミの伐採を実施した（図254）。

【金山越】

金山では市民史跡保全活動の際、支障木の撤去や街道に覆い被さる木々の枝払いを通して視点場の創出と眺望景觀の保全に努めている（図257）。

なお、金山峠付近から北側を望んだときに見える残雪の月山及び村山葉山の眺望景觀を保全するため、視界を遮る雑木の枝払い等を計画的に実施する（図256）。



図 253 対岸まで枝を張ったケヤキ



図 254 住民主導で枝払い 2020. 3. 23



図 255 金山峠からの眺望を阻害する枝葉

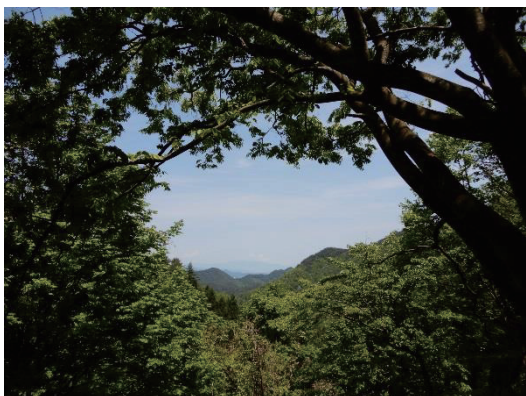


図 256 眺望景觀を確保するための枝払い後

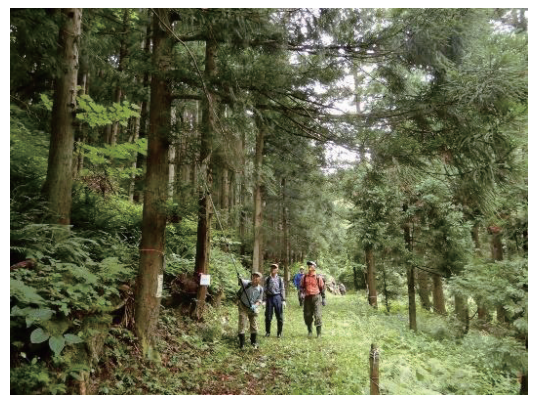


図 257 市民史跡保全活動で枝払い

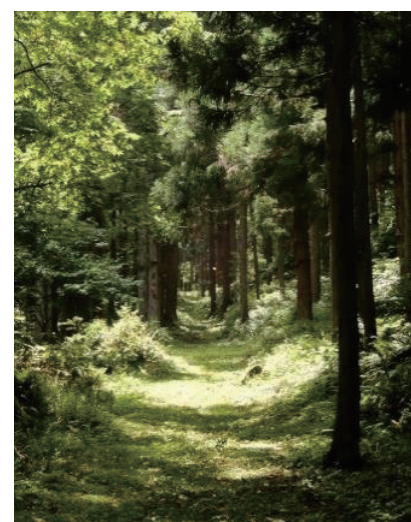


図 258
保全活動で
視点場を維持

5－6－4 倒木への対応

【金山越】

金山は、毎年、雪や風の影響による倒木が目立つ（図259）。

現地に放置された倒木は史跡の景観に相応しくなく、また、平成26年7月に史跡23箇所が被災した災害は、現地の倒木類が大雨で金山川に流入し、水の流れをせき止めて決壊したことが要因の一つと考えられている。しかし、金山では重機類が進入可能なエリアが限られており、倒木の搬出は困難である。

そこで、市民史跡保全活動の際に、倒木を玉切りにして現地で積み戻す整理作業やチップ化を実施しており、今後も市民参加型保全活動の定期的な開催を通して史跡の景観の保全と災害の再発防止に努めていく。



図 259 金山越の街道沿いにおける倒木

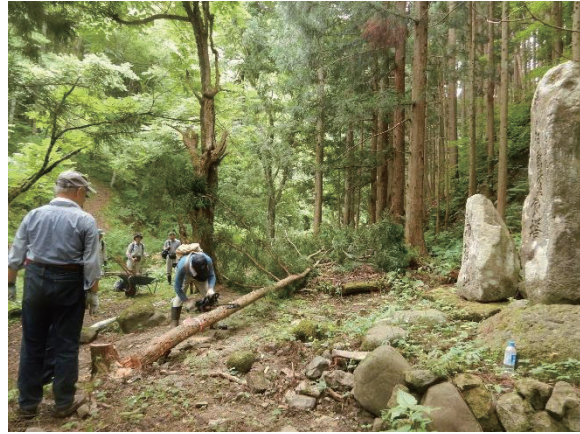


図 260 倒木を玉切にして現地に積み戻す（市民史跡保全活動）



図 261 チッパー粉砕機が進入可能なエリアでは倒木類をチップ化（市民史跡保全活動）